

講演を行う柴田さん＝24日、松江市乃木福富、小松電機産業(株)内太陽ホールにて



## 「命のバトン」を次の世代へ

松江 柴田久美子さんが講演会

出雲市の出身で、二〇〇二年に隠岐郡の知夫里島でNPO法人看取りの家「なごみの里」を開設し、多くの人々の最期を看取っている柴田久美子さんが二十四日、松江市乃木福富町の小松電機産業株式会社内太陽ホールで講演会を行った。

マクロビオティックアカデミイス・パイラル(小松志津子代表)の主催で行われたこの講演会は、「抱きしめて、命のリレー、いかに生きるかを学ぶ」と題して行われ、柴田さんは自身の体験談を交えながら、人の最期を看取ることの素晴らしさ、大切さを集まった約百二十人の参加者に語りかけた。

自身が小学校六年生のときに亡くなった、父親の最期を看取った経験が原風景と語る柴田さん。「幸せとは生きることだと高齢者の方に教わることができた。死という体の変化で、残された善い心、魂は看取りという命のバトンを通じて、子や孫の世代に受け継がれていく」とし、「心穏やかな死を選ぶことの出不来ない、今の現実を次の世代に残してはいけない」と訴えかけた。

主催者の小松代表は「以前から柴田さんの著書を読んでいて、深く、静かな所から来る感動に感銘を受けていた。偶然にもお会い出来たことがきっかけで、この講演会が実現できうれしく思っている。看取りの経験のある方にはその経験の素晴らしさを改めて実感し、まだ経験のない方には、その大切さを知ってもらえれば」と話していた。